

# 「太平山麓九条の会」だより



事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757  
電話連絡先 0282-22-7079(増田)  
Eメール [oochirasanroku9jo@yahoo.co.jp](mailto:oochirasanroku9jo@yahoo.co.jp) HP：太平山麓九条の会で検索

185号  
2022年11月25日発行

## 戦争体験を聞く会を開催するにあたって、野口徳さん語る

「私の話が平和・憲法9条を守るために  
生かされたらうれしい」

### 野口徳さんの戦争体験を聞く会

★日時：12月15日(木)

13時30分から15時

★場所：とちぎ蔵の街楽習館 研修室(4階)



(野口さんがいたハルピン市)

「戦争体験といっても、私の体験は直接戦闘行為に参加した体験ではない。でも一般の人間が戦争によって、どんな影響を受けたかを知ってもらうことに意味があると思う。私の体験を受け止めて、多くの人が戦争の悲惨さを知り、平和を守るために生かされたらうれしい」

これは野口さんが戦争体験を語るにあたり、打ち合わせをした時の言葉です。そんな思いを私たちは受け止めたと思います。

戦争を直接体験した人が少なくなっている今、ぜひ多くの人に話を聞いていただきたいと思います。寒い季節ではありますが、ぜひお出かけください。

## 「自由を生き抜く実践知」とは＝田中優子さんの講演を聞いて



過日「自由を生き抜く実践知」というテーマで田中優子さん(法政大学前総長)の講演をオンラインで聴くことができました。

このテーマは“法政大学憲章”で掲げた言葉だそうです。「みんなが自由である社会をめざすことは極めて高い理想ですが、それに向かっていかなければならない。毎日の生活の中で日々何らかの実践をしながら知性を磨いていくことが大事です」と、このテーマの意味についてわかりやすく話してくれました。

今問題になっている自民党改憲草案の内容や統一教会と政治の癒着問題など、田中さんの語る内容が心にすんと落ちて理解することができました。

その中でも、「政治家がやるべきことは幸せな人を増やすこと。どういう社会であれば幸せな人が増えるか。そのためには自分とまわりのことだけでなく戦禍の中にいる人、貧困の中にある人達に想像力を飛ばさなければならぬ。

自分たちが生活しながらできることは、何かを考え続ける不断的努力をすること。それが何より大事なことと思っています。」という話がとても強く心に残りました。

(荻野美津子 記)

◆◇スタンディング

12月9日(金):市役所前

12月19日(月) カワチ・イオン前

両日とも15時から

◇◆スタッフ会議

12月8日(木)・1月12日(木)

13時30分から

くらら(とちぎ楽習館 2階)

# 「軍事費が2倍以上になるということ

## ～暮らしはどうなる！？～」学習会(とちぎ市民ネット主催)に参加して

熊澤先生のお話は分かりやすく、レクチャー後の質疑応答までみなさん熱心に学習できました。軍事費増額と暮らしを守る、の二点についてまとめます。

まず1点目。日本は、これまで自衛隊戦力を「専守防衛、GDP比1%」の枠内に収めてきたが、岸田政権は「敵基地攻撃能力の保有、NATO基準のGDP比2%以上で軍事費倍増」を本年度末までに安保関連3文書に書き込もうとしている。9条を破壊し、日米軍事同盟の下で中国、ロシア、北朝鮮と対峙する米軍の手下として戦争のできる国への転換を目指す。増額される防衛省予算要求の特徴は、新規事業は金額としては示されず、事項要求(100項目以上)のみとなり、防衛体制の具体像は国民の目には隠されてしまうということ、これには驚く。

次に、増える軍事費をどこから捻出するのか。経費削減か増税か、どちらも？そもそも日本は世界最大の国債依存国で、財政危機の回避が長年の課題であり続けている。政府は財政危機の原因を社会保障費の増大に押し付け、消費税を目的税化しておきながらいまや社会保障の総額抑制に懸命である。日本の社会保障の財源は公費(国税、地方税)が少なく社会保険料中心であるため、国民の生活に直結する年金、医療、介護等の給付削減や保険料値上げなど、改悪が進んでいる。近年の物価上昇とも相まって私たちの生活は逼迫する一方である。不公平税制を是正し、社会保障にもっと税金を投入すべきである。社会保障を犠牲にした軍拡など憲法無視も甚だしい、との強い訴えでした。(ここにきて政府与党内では防衛費の増額は増税で賄うべき、の声が強まってきている。)

大塚育子 記

軍事費が2倍以上になるということ  
～暮らしはどうなる！？～

10月30日(日) 午後1時半～午後3時  
キョウトちぎ市民ネット 1階 大交流室  
(栃木市市民交流センター) 栃木市入谷6-8-8 電話0282-24-0352

講師 経済評論家熊澤通夫さん

主催 ちぎ市民ネットグループ 代表 田上 由子  
事務局 大塚(080-887-5452) 板橋(080-848-7508)

今回の講演会で、私が一番衝撃を受けたのは、「なぜ岸田政権は、こんなに軍事費を増額しようとしているのですか」という質問への答えを聞いた時です。熊澤先生は私見だと断っていましたが、「政府は軍備を国の産業にしたいと思っているのではないですか」と言われました。

軍事費を増強しようとしているのは、中国や北朝鮮の動きが大きく作用していること。また、アメリカが多量の兵器を日本に売りつけようとしていることが理由と思っていた私は驚いたのです。もちろん、私が思っていたことも理由のひとつかもしれませんが、それよりも積極的に我が国が軍事産業に加担しようとしていると知って、ぞっとしました。三菱やトヨタ・日野などの大企業が自動車だけでなく、軍事産業に参入しているということも知りました。

そういう視点で、最近の政治の動きを振り返ってみると、熊澤先生の考えは現実かもと思えてきました。安民法制の改悪、日本学術会議での任命拒否、大学の研究が軍事研究にシフトするように誘導する予算配分。「武器輸出三原則」を撤廃し、新たな武器輸出の方針を示す「防衛装備移転三原則」を閣議決定したこと。そして九条改憲を含む改憲の動き。

あの悲惨な戦争を体験した我が国は、二度と戦争はしないと誓い、武器を使わない・武器を持たないと九条に明記したはず。そんな国の企業が兵器を製造している。そしてそれを他国に輸出しようとしている。考えられないことです。しかし現実にはそういう事態が進行しているのです。私たちが気付かないうちに軍国化していく動きが着々と進められ、戦争をしないための最後の砦である九条が危ない。そういう状況になっていることに改めて気づかされました。

物価高で我々の暮らしが苦しくなっているにもかかわらず、福祉政策は後退するばかり。平和を守るためにも生活を守るためにも、軍事費増強に反対する声を上げるとともに、九条改憲の動きに機敏に対応し九条を守り抜きたいという思いを強くした講演会でした。

板橋千代子 記